

## 「JENESYS2018」中国青年公益事業交流団 参加者の感想（抜粋）

○今回、初めて日本を訪れたが、皆に伝えたいと思える収穫の多い旅だった。河野太郎外務大臣を表敬訪問し、中日の友好関係について改めて理解を深め、友好を望む気持ちが強まった。また、防災の分野で著しい成果を上げている「一言会（一寺言問を防災のまちにする会）」を訪問し、公共の利益というものは細かい部分に反映されるものであることが分かった。さまざまな角度から考えてこそ、安心して暮らせるコミュニティが建設できるのだ。奈良の川上村を訪れ、わずかに数十名の生徒のためでも教育をおろそかにしない小学校を参観し、尊敬の気持ちを抱いた。明日香村では、住民の心のこもったもてなしを受け、慎ましく、温かい日本の暮らしを体験した。中国とは異なる部分も多いが、人々が勤勉で、善良で、優しく礼儀正しいところなどは、全く同じだ。急速に進んだ日本の経済発展やAI化、人間本位の配慮などを目に見ると、中国の今後の発展にも一層の期待が持てるようになった。良好な発展を続けている二つの国が友好的な関係の中で手を取り合い、ともに前進し、何世代にもわたる友好の芽を育み、花を咲かせ、末永い友情を築いてほしい。

○収穫の多い日本の旅だった。風光明媚な自然を堪能し、おいしい日本食を味わい、日本の文化を学んだ。特に、ボランティアの管理と防災・減災に関する視察からは得られたことが多かった。

### 1. ボランティア活動の組織について

講師が、日本におけるボランティア活動の誕生の歴史的背景や活動を続ける上での原則、ボランティア活動の意義や日本で行われている主な作業について説明してくれた。今回の学びを通して、日本のボランティア活動が非常に成熟していると分かった。政府もボランティア活動を重視し、政策と資金の面からサポートしている。一般市民の間にもボランティアの意識が浸透しており、自覚を持ってボランティア活動に賛同し、積極的に参加している。日本のボランティア団体が行う活動は範囲が広い。内容や領域も多様で、参加する人にはごく普通の健康な市民もいれば、老人や身体障害者、主婦もいて、それぞれの強みを活かしている。

### 2. 防災・減災について

今回の視察を通して、日本人の防災・減災意識の高さが分かった。子どもの頃から専門の訓練を定期的に受けている。特に印象深かったのは、災害を想定した事前の準備を重視していたところだ。100年後を目標に地域づくりを進めており、長期的な子や孫の代の幸せと安全を考えている。

○日本を初めて訪れた感想：

初めて東京に足を踏み入れた時、清潔で秩序のある日本の都市の光景に衝撃を受けた。「日本のボランティア活動」に関するセミナーで、日本も中国と同様、老人介護や空き家問題、老老介護の問題に悩まされていると知り、私が暮らしている大型団地の状況と結びつけて考えた。講師

の先生がおっしゃった高齢者ボランティアの募集の話聞いて気づいた。高齢者が必要としているのは、ただ寿命を全うすることだけではなく、社会への帰属感と集団の中での存在感なのだ。川上村立川上小学校の視察では、考えさせられることが多かった。校内でのゴミの分別、避難訓練や防災教育の徹底など、必要な措置が的確に実施されており、我々も参考にしたいと思った。また、生徒たちの自信や大らかさといった面では、我々の学校の生徒は川上小学校の生徒に比べても劣らないと思った。ホームステイについては、ホストファミリーに温かくもてなしてもらい、日本の一般家庭のライフスタイルについて理解を深めることができた。晩ご飯のあとで新聞を読んだり、折り紙をしたり、絵を描いたりした。携帯電話の使用時間が私の家族よりはるかに短かった。ホストファミリーと交流する中で見たのは、中国人か日本人かは関係なく、皆、中日両国の友好に貢献したいと願っているということだ。

日本での活動中、細かなところまで完璧を追求する日本人の性質に関心を持った。人間本位の設計で作られた便器、洗面所の鏡の曇り止め、狭いスペースの効果的な利用法、雨水を貯めるタンクの設置などがそれだ。中国の聖人・孔子は言った。「3人行えば、必ず我が師有り」。国の良好な発展のため、他国からの学びは欠かせない。中国経済の急速な発展も、この先、日本のお手本となることだろう。互いに補い合い、中日両国の関係が益々良くなっていくことを望んでいる。

○公益事業への入念な取り組み：今回の日本訪問で最も印象に残ったことは以下の通りだ。

1. ボランティア活動などの指導：活動の種類が多く、さまざまなPRを行って参加希望者を募っている。現在、体験型のボランティア活動は3000種類あまりあり、以下のような指導が行われている。

①多面的なボランティアの企画と、年齢・職業・ニーズ・趣味などをカバーした内容の確立。こうすることで、どんな人でも自分の興味に合わせてボランティアに参加することができる。

②参加者募集のPRを重視し、市民をボランティア活動に誘導して体験してもらい、ネットワークを形成することで持続可能な活動の広がりを狙う。どの取り組みも、細やかな計画と分析の上に成り立っている。

2. 長期的目標を設定して詳細を固め、段階的に実施している。例えば、「一言会」を訪問した際、徐々に道路を拡張し、あらゆるところに消防設備を設置し、雨水を貯めて防災のために使っている様子を視察した。仕事場と住居を分離し、隣近所とはしっかり交流する。まるで子供に名前をつけるように自分たちの居住プランを考え、どんな些細な問題にも丁寧に対応して解決を図る。そんな様子が見て取れた。

3. 効果的なボランティア活動を実施し、教育の後押しを行っている。例えば、奈良の「森と水の源流館」や川上村立川上小学校は、その土地の状況にあわせ、住民をボランティアに動員している。例えば、伝統文化を伝えるため、おじいさんやおばあさんが学校や博物館などでボランティア活動をしている。

今後の仕事に役立てたいこと：どんな些細なことでも、計画的に完璧にやり遂げること。

中国と日本の相違点：日本は細やかで、中国は臨機応変だ。中国の公益事業の柔軟性と革新性は

「インターネット」「科学技術」といった豊富な資源を十分に活用して事業を促進し、国民をけん引することによって生まれている。

中国と日本の共通点：「公益」「ボランティア精神」という無償奉仕の心は共通している。

印象的だったこと：視察で訪れた小学校が、わざわざ中日双方の国旗を用意し、掲揚してくれたこと。友好を望む気持ちを感じた。明日香村でのホームステイで育んだ友情も印象に残っている。

○1. 日本のボランティア活動の歴史に関するセミナーを聞き、日本の状況について理解が深まった。日本のボランティア活動が事業として整備されており、この分野で中国はまだ後れをとっている。今回のセミナーを聞いて得られた収穫は多かった。

2. 川上村立川上小学校を参観し、日本の義務教育の状況を知ることができた。あのような山の中のわずか25名しか生徒がいない学校にも、公的な教育の手が行き届いている。学校の教育方法について参考になる部分がたくさんあった。

3. 明日香村でのホームステイでは、ホストファミリーに奈良県立万葉文化館に連れていってもらい、『万葉集』に関する展示を見学した。中日の歴史の文化の源について理解を深めることができたのは、大きな収穫だった。万葉集はすべて漢字の繁体字で書かれており、日本語が理解できない私も、この古代の書籍の言葉をすべて読むことができた。その後、東大寺と平等院を参観し、中日の文化交流の歴史に対し、かつて抱いていた憧れの念がよみがえった。残念だったのは、唐招提寺を参観する機会がなかったことだ。

4. この旅で一番心を打たれたのは、日本の社会と日本人の礼儀正しさだ。飛行機は東京に到着し、そのあと京都・奈良を回った。大都市であっても、山村であっても、道にはゴミ箱ばかりかゴミ一つ見あたらない。素晴らしいことだ。環境保護の面で気づかされたことが多かった。日本人の礼儀正しさについては、説明する必要もないだろう。